

矢祭町地域おこし協力隊は、町外のさまざまな地域から集まり、地域づくりに貢献しています。

現在町内にいるのは6名。各メンバーは、JR水郡線東館駅を中心とした地域場のづくり、デジタル推進、読書の町づくり推進、スポーツ振興など、多岐にわたるジャンルで活動中です。町内で協力隊の活動をお見かけの際は、お気軽にお声がけください！

地域おこし協力隊って？

「地域おこし協力隊」とは総務省が実施する制度です。隊員は都市部等から地方に移住し「地域活性化のための活動」を業務として日々取り組んでいます。

任期は最大三年間。学校や図書館と連携し活動をする、イベントを企画して人と人の交流を増やす、町の人が集まれる場所を運営する…等々、それぞれのやり方で活動しています。また、隊員は皆違う地域から移住してくる為生活でも慣れない事や新しい事に沢山出会いながら、ここ矢祭町で暮らしています。

出身も経歴も全く異なる私たちですが、「この町でどんなことが出来るだろう？」と全員が考え試行錯誤していますので、町で見かけた際はどうぞよろしくお願い致します！



大黒屋真由 Mayu Ooguroya

デジタル推進担当

東京都出身。前職は舞踏家。趣味はナンパ歩き。特技はストリートダンス。



Instagram



矢祭TV



あけましておめでとうございます。矢祭町に移住してきて、はや9ヶ月。色々あった2025年ですが、今年2026年もまた、とんでもなくはやく過ぎ去っていきそうな予感が。

矢祭町では、デジタルと大自然を通しどのようにテクノロジーと手作り文化を融合させて、新たな価値観を創出していけるか。こちらに着目しながら生活しております。この先の定住を目指して古民家と倉庫、山林や少しの畑が付随している空き家を探しながら活動していますが、なかなか見つからず、苦戦しております。都会からの移住者が、大自然の中、持続可能な生活を構築する為に必要な基礎知識は山ほどあり、日々学びながら生活している中、やはり手作りによる"ぬくもり感"は良いなと引き寄せられます。

写真は、矢祭町中学校文化祭の手作り看板。サナギから蝶へ。未来に羽ばたいて行く様子。共に活動してますデジタル部の中学生からはじまり、自分の振動が少しでも伝われば良いなと矢祭町で過ごしています貴重な時間です。本年度もどうぞ宜しくお願い致します。

大黒屋真由 Mayu Ooguroya

デジタル推進担当

東京都出身。前職は舞踏家。趣味はナンパ歩き。特技はストリートダンス。



Instagram



矢祭TV



Volume.98

2026.1Update

Let's go!

矢祭町地域おこし協力隊

活動ダイアリー



個人種目の多い陸上競技ですが、中にはリレーや駅伝など、チームを組んで競う種目もあります。バトンやタスキを最後のアンカーまでつなぐこれらの種目は、1人1人の責任の重さが増します。ですが、一緒になってゴールをめざす心強さや連帯感の中でモチベーションが上がり、個人種目とはまた違った楽しさが生まれます。先日開催された「矢祭ふれあい駅伝大会」で、それを感じることができました。

第30回矢祭ふれあい駅伝大会では、YouTuberのたむじょーさんをゲストランナーとしてお招きし、大変な盛り上がりを見せました。前日には、小中学生を対象に、たむじょーさんのランニング教室も行いました。ふれあい駅伝は、勝負に徹するというよりも、仲間と一緒に走り切ることを目標としているチームが多いように思います。喜多方市から常陸大宮市まで、遠いところから参加されているチームもあります。この先も駅伝大会を通して、矢祭町だけでなく、広くたくさんの方が元気に明るくなるような、そんな大会が続いていくといいなと思っています。

鳴瀬望 Nozomu Naruse

スポーツ振興担当

山形県鶴岡市出身。前職は小学校教員。トレイルラン、スキューバダイビング、旅行(海外)、ドラマを見るのが好き。



Instagram

Check!



あけましておめでとうございます!ヒガシダテ待合室の藤谷です。皆さん、年末年始はゆっくり休めましたか?私は実家に帰省し母の料理をたっぷり食べてより丸々としているかと思います……

さて、矢祭町で3回目の冬を迎え、いよいよ協力隊卒業まで3か月を切りました。3年前を振り返ると、2023年3月31日から矢祭町での生活がスタートし、当時は車を持っていなかったため、協力隊仲間や町の方に色々な場所へ連れて行って貰い、少しずつ町のことを知っていききました。4月末からは本格的にヒガシダテ待合室を拠点とした活動がスタートしました。この頃は利用者も少なかったため一人で過ごす時間が多く、掃除や看板作り、窓に花の絵を描くなど、なんとか利用者を増やそうとしていました。6月に初イベント『第一回古着カフェ』を開催し、このイベントをきっかけに少しずつ知って貰えるようになりました。そして今では、一日の利用者数が20名近くに達する日もあります!

これまでのヒガシダテ待合室での出来事を形に残したく、もったいない図書館主催『手づくり絵本コンクール』に「ヒガシダテ待合室」という題名で応募しました。結果は特別賞をいただき、ヤッター!と大満足で新たな年を迎えました。2026年の抱負は、協力隊同期の鳴瀬さんとのコラボイベントが最後に出来たら良いな~と思っています! 2026年もどうぞよろしくお願い致します!

藤谷麻莉 Mari Fujiya

地域の場づくり担当

福島県いわき市出身。前職はアパレル関係。食べ歩き、登山、ピアノ、水泳が趣味。



Instagram (個人)



Instagram (ヒガシダテ待合室)



Instagram (ヒガシダテ待合室掲示版)

